

■東京大学 医科学研究所
の宮本悦子特任准教授らは、
人の生命活動をコントロール
するたんぱく質の相互作用を
分析する新しい手法を開発し
た。高速でゲノム（全遺伝情
報）を解析する次世代シーケ
ンサーと併用すれば、たんぱ
く質同士の働きを効率よく調
べることができ、創薬などに
応用できる。

たんぱく質の相互作用を調
べる研究は「インタラクト
ム」と呼ばれ、新しい薬の標
的を求めて国内外で盛んにな

たんぱく質相互の 働き効率よく分析

りつつある。ただ、これまで
は一つ一つ遺伝子を細胞から
取り出して調べる方法しかな
く、数万種類のたんぱく質の
関係性を網羅的に解析するこ
とは不可能に近かった。

遺伝子の解析に使うシーケ
ンサーでは通常はたんぱく質
自体を調べることはできな
い。研究チームはたんぱく質
にRNA（リボ核酸）と呼ぶ
遺伝情報を結合させる技術を
応用し、シーケンサーを使っ
てたんぱく質の相互作用を分
析することに成功した。